

**令和4年度全国学力・学習状況調査分析と活用**

**教科に関する調査結果の分析と今後の取組**

**熊本県教育委員会**

# 1 教科に関する調査結果の概要

本県の概要

- ・ 小学校では、**国語と理科は全国平均とほぼ同じ状況であり、算数は全国平均を下回っている。**
- ・ 中学校では、**理科は全国平均とほぼ同じ状況であり、国語と数学は全国平均を下回っている。**

	【小学校6年生】		
	国語	算数	理科
熊本県	65%	62%	63%
全国	65.6%	63.2%	63.3%

	【中学校3年生】		
	国語	数学	理科
熊本県	68%	49%	49%
全国	69.0%	51.4%	49.3%

※表中の数値は平均正答率（%），県の値は国から整数値で公表

# 1 教科に関する調査結果の概要（各教科の出題内容について）

## 各教科の出題内容

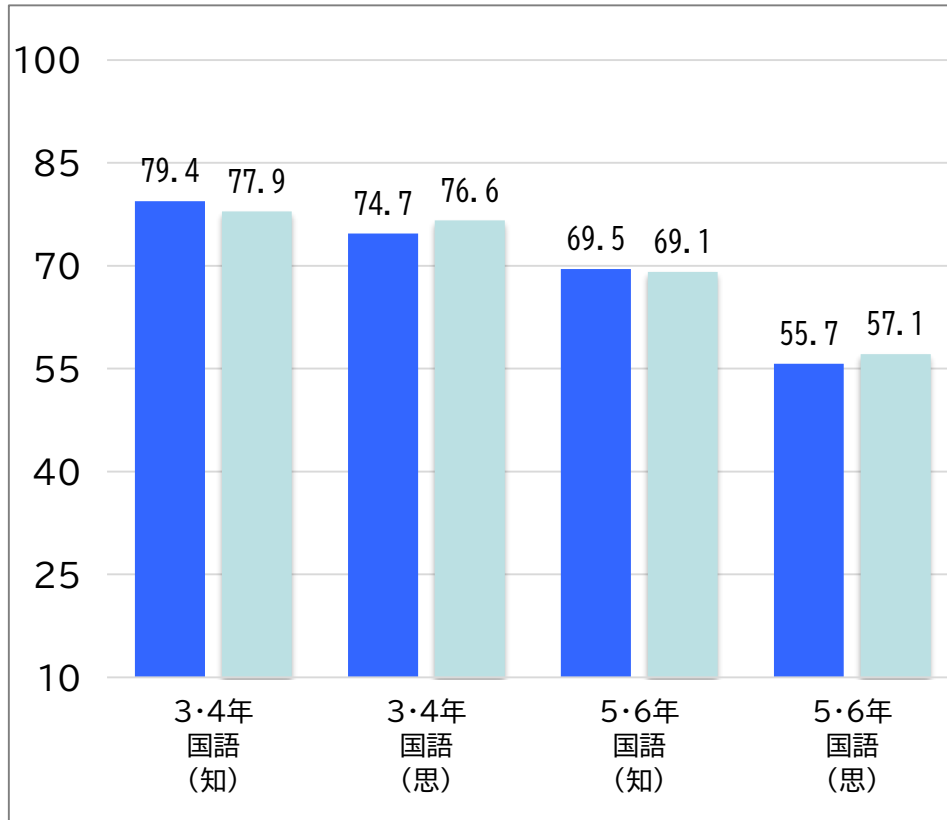
- ①身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり、常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
- ②知識・技能を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等

※ 3ページ以降の各教科の結果分析で、  
（知）や「知識」と記しているものは、「知識・技能」で、  
（思）や「思考」と記しているものは、「思考・判断・表現」で、  
評価の観点を示しています。

## 2 - (1) 教科の結果分析 (観点別正答率と度数分布)

【観点別正答率】

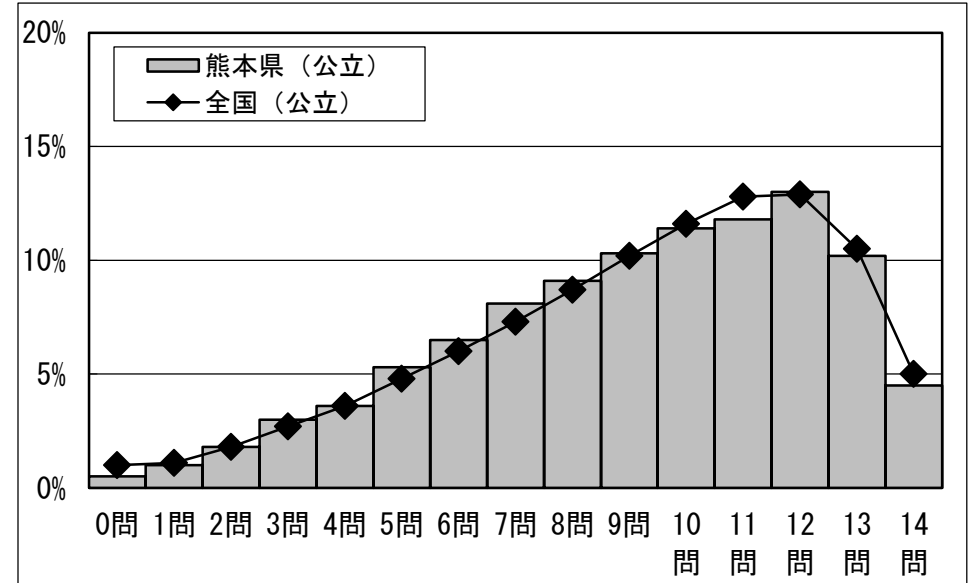
全学調の各小問を、学年と観点別に分け、正答率を算出



■ 本県    ■ 全国

※(知)は知識・技能, (思)は思考・判断・表現である評価の観点。

【正答数度数分布】



- ・「観点別正答率」から、小学校の国語は、知識・技能よりも思考・判断・表現に課題があり、全国平均を下回っている。
- ・「正答数度数分布」で見ると、ほぼ全国平均だが、平均正答数9.2問より低い5～7問の正答の割合がわずかに高く、11問の正答の割合が少ない。

## 2 - (2) 教科の結果分析 (小問別正答率)

問題番号	出題の主趣	学年	学習指導要領 指導事項	観点	正答率(%)		差			
					県	全国				
1	一	話し言葉と書き言葉との違いを理解する	5年 6年	言葉の特徴や使い方に関する事項イ	知識	84.8	85.5	-0.7		
	二	言葉には、相手とのつながりをつくる働きがあることを捉える	5年 6年	言葉の特徴や使い方に関する事項ア	知識	67.0	68.8	-1.8	▼	※
	三	必要なことを質問し、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心を捉える	3年 4年	「聞くこと」エ	思考	83.9	84.7	-0.8		
	四	互いの立場や意図を明確にしながらか計画的に話し合い、自分の考えをまとめる	5年 6年	「話し合うこと」オ	思考	47.3	47.7	-0.4		※
2	一(1)	登場人物の行動や気持ちなどについて、叙述を基に捉える	3年 4年	「読むこと」イ	思考	65.5	68.4	-2.9		※
	一(2)	登場人物の相互関係について、描写を基に捉える	5年 6年	「読むこと」イ	思考	65.4	70.6	-5.2	★	
	二	人物像や物語の全体像を具体的に想像する	5年 6年	「読むこと」エ	思考	66.9	68.3	-1.4		
	三	表現の効果を考える	5年 6年	「読むこと」エ	思考	56.8	59.2	-2.4	▼	
3	一	文章全体の構成や書き表し方などに着目して、文や文章を整える	5年 6年	「書くこと」オ	思考	58.6	59.2	-0.6		※
	二	文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付ける	5年 6年	「書くこと」カ	思考	39.3	37.7	1.6		
	三ア	学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使う	5年 6年	言葉の特徴や使い方に関する事項エ	知識	65.5	65.2	0.3		
	三イ	学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使う	5年 6年	言葉の特徴や使い方に関する事項エ	知識	62.9	58.7	4.2	◎	
	三ウ	学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使う	5年 6年	言葉の特徴や使い方に関する事項エ	知識	67.3	67.1	0.2		
	四	漢字や仮名の大きさ、配列に注意して書く	3年 4年	「書写」我が国の言語文化に関する事項エ(イ)	知識	79.4	77.9	1.5	◎	

全国平均を上回っているもの

全国平均を下回っているもの

◎ : 成果が見られた内容

▼ : 課題が見られた内容

★ : 継続している課題

※ : 授業アイデア例の記載

## 成果が見られた内容

- ◎ 学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うこと  
【問題番号 3三イ】※はんせい(反省)
- ◎ 漢字や仮名の大きさ, 配列に注意して書くこと  
【問題番号 3四】

## 継続している課題について

- ・ 物語を読み, 具体的な叙述を基に, 理由を明確にして, 自分の考えをまとめること
  - ・ 登場人物の相互関係について複数の描写に着目して捉えること
- このような読むこと全般に課題が見られます。

## 課題が見られた内容

- ★ 登場人物の行動や気持ちなどについて, 叙述を基に捉えること  
【問題番号 2一(1)】
- ★ 登場人物の相互関係について, 描写を基に捉えること  
【問題番号 2一(2)】 ※次ページ参照
- ★ 人物像や物語の全体像を具体的に想像すること  
【問題番号 2二】  
……継続している課題(◆参照)
- ▼ 表現の効果を考えること  
【問題番号 2三】
- ▼ 言葉には, 相手とのつながりをつくる働きがあることを捉えること【問題番号 1二】

## ◆ 継続して課題となった類似 (関連) 問題

- ① H29全学調: 小学6年B大問3三  
正答率(%)県: 41.6, 全国: 43.9, 差(-2.3)

## 課題となった問題

●2- (2) (本県65.4%, 全国70.6%, 差-5.2) ※無解答(本県0.9%, 全国1.6%)

登場人物の相互関係について、描写を基に捉えることができるかどうかをみる問題

5	4	3	2	1
【物語の一部】の	【物語の一部】の	【物語の一部】の	【物語の一部】の	【物語の一部】の
部才	部工	部ウ	部イ	部ア

その番号を書きましょう。

2 (2) 森田さんは、——部②と③から、「老人」は未来の「ぼく」であると考え、他にもそのことが分かる場所を探しています。「老人」が未来の「ぼく」であると考えられるところとして適切なものを、次の1から5までのの中から二つ選んで、その番号を書きましょう。

【物語の一部】

(那須田淳「銀色の幻想」による。)

2 森田さんの学級では、不思議な出来事が描かれていた。森田さんは、「銀色の幻想」という題名の物語を選んで読み、気になるところにふせんをはっていました。次は、【物語のこれまでのあらすじ】と【物語の一部】です。これらをよく読んで、あとの問いに答えましょう。

## 誤答例から考えられる授業での子供の姿

物語の一部分の描写から登場人物の相互関係について考えることができるが、複数の描写に着目していない。

## 授業改善のポイント

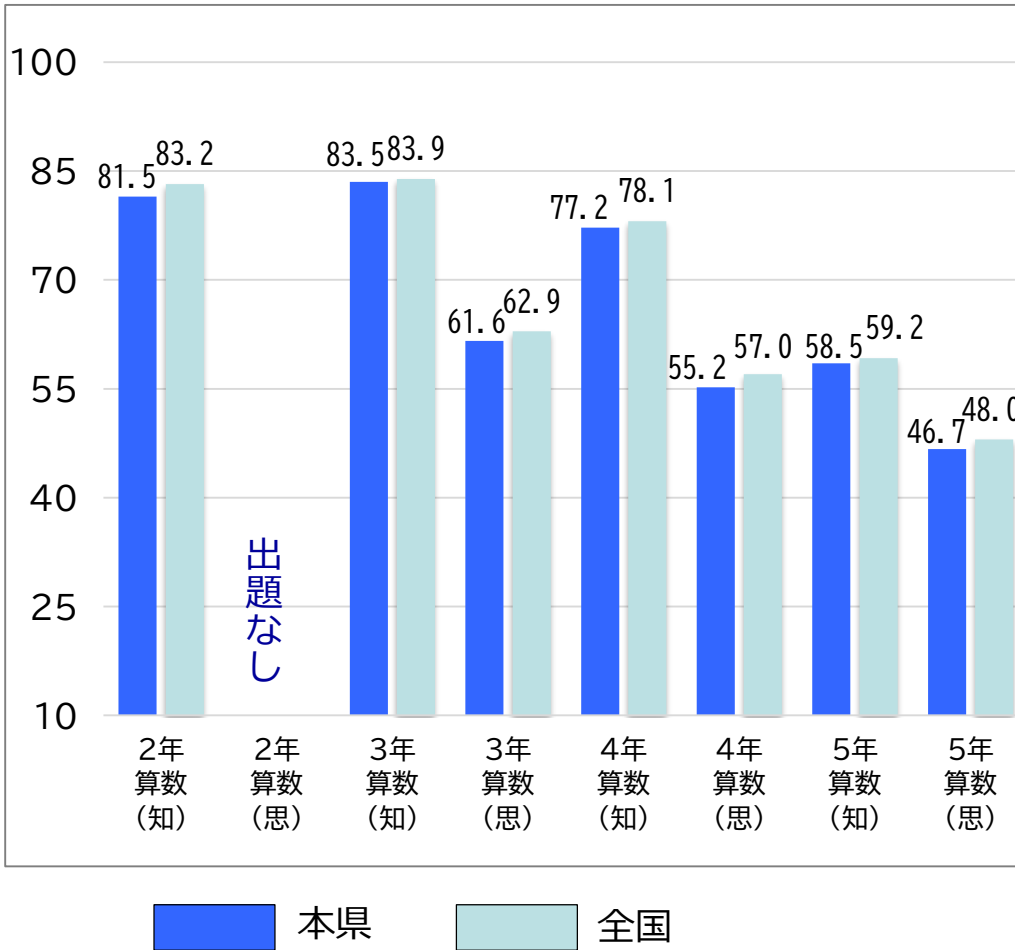
- ① 登場人物の相互関係を捉える際には、文章全体から関係性が分かる複数の文章を選び出し、なぜその文章を選んだのか根拠を説明する場面を設定する。
- ② 表現の仕方に着目して相互関係や心情などを捉える場面を設定する。特に、行動、会話、情景の中の暗示的な表現に注意する。
- ③ 物語の全体像を捉えやすくするために、物語の全文が一枚の用紙に掲載されたシートを活用したり、相互関係を人物相関図などに表したりするなどの工夫を行う。

・物語の一部分だけを取り上げて登場人物の相互関係について考えるのではなく、物語全体を通して、相互関係について描かれている複数の描写に着目しながら読むことができるように指導することが効果的である。

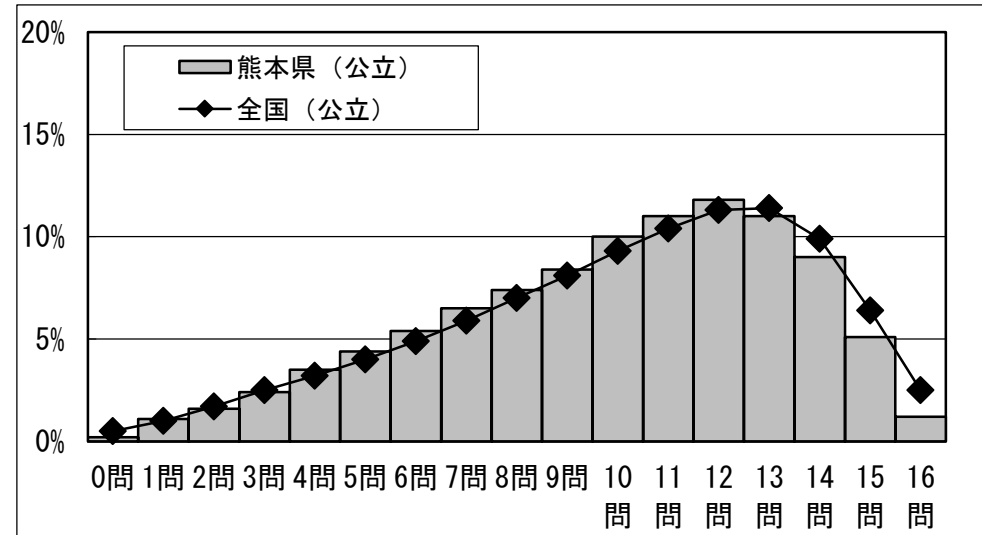
## 2 - (1) 教科の結果分析 (観点別正答率と度数分布)

【観点別正答率】

全学調の各小問を、学年と観点別に分け、正答率を算出



【正答数度数分布】



- ・「観点別正答率」から、全ての項目において全国平均をわずかに下回っており、各学年において知識・技能よりも思考・判断・表現に課題が見られる。
- ・「正答数度数分布」で見ると、全国値とほぼ同じだが、正答数13問以上の割合はわずかに少ない。


※(知)は知識・技能、(思)は思考・判断・表現である評価の観点。




## 2 - (2) 教科の結果分析 (小問別正答率)

## 小学校算数②

問題番号	出題の主趣	学年	単元・内容等	観点	正答率(%)		差		
					県	全国			
1	(1) 被乗数に空位のある整数の乗法の計算をすることができる	3年 4年	かけ算の筆算(数と計算) 計算のきまり(数と計算)	知識	92.7	92.4	0.3	◎	
	(2) 二つの数の最小公倍数を求めることができる	5年	整数(数と計算)	知識	74.6	72.2	2.4	◎	
	(3) 示された場面を解釈し、除法で求めることができる理由を記述できる	3年 4年	わり算(数と計算)	思考	78.8	76.0	2.8	◎	
	(4) 示された場面において、目的に合った数の処理の仕方を考察できる	4年	概数(数と計算)	思考	27.5	34.8	-7.3	▼	※
2	(1) 百分率で示された割合を分数で表すことができる	5年	割合(変化と関係)	知識	71.4	71.1	0.3	◎	
	(2) 百分率で表された割合と基準量から、比較量を求めることができる	5年	割合(変化と関係)	知識	61.9	64.6	-2.7		
	(3) 示された場面のように、数量が変わっても割合は変わらないことを理解している	5年	割合(変化と関係)	知識	18.6	21.4	-2.8	▼	※
	(4) 伴って変わる二つの数量が比例の関係にあることを用いて、未知の数量の求め方と答えを記述できる	5年	円周と比例(変化と関係)	思考	46.7	48.0	-1.3	★	
3	(1) 表の意味を理解し、全体と部分の関係に着目して、ある項目に当たる数を求めることができる	3年 4年	表とグラフ(データの活用) 計算のきまり(数と計算)	知識	74.2	75.3	-1.1		
	(2) 分類整理されたデータを基に、目的に応じてデータの特徴を捉え考察できる	3年	表とグラフ (データの活用)	思考	59.3	63.9	-4.6	▼	
	(3) 目的に応じて円グラフを選択し、必要な情報を読み取ることができる	5年	割合のグラフ (データの活用)	知識	65.8	66.8	-1.0		
	(4) 加法と乗法の混合したポイント数の求め方を解釈し、ほかの場合のポイント数の求め方と答えを記述できる	4年	計算のきまり(数と計算)	思考	66.9	67.7	-0.8		※
4	(1) 正三角形の意味や性質を基に、回転の大きさとしての角の大きさに着目し、正三角形の構成の仕方について考察し、記述できる	3年 4年	三角形(図形) 角とその大きさ(図形)	思考	46.6	48.8	-2.2	▼	
	(2) 図形を構成する要素に着目して、長方形の意味や性質、構成の仕方について理解している	2年	長方形と正方形(図形)	知識	81.5	83.2	-1.7		※
	(3) 図形を構成する要素に着目して、ひし形の意味や性質、構成の仕方について理解している	4年	垂直・平行と四角形 (図形)	知識	64.7	66.5	-1.8		
	(4) 示された作図の手順を基に、図形を構成する要素に着目し、平行四辺形であることを判断できる	4年	垂直・平行と四角形 (図形)	思考	56.4	57.6	-1.2		

 全国平均を上回っているもの

 全国平均を下回っているもの

◎ : 成果が見られた内容

▼ : 課題が見られた内容

★ : 継続している課題

※ : 授業アイディア例の記載

## 成果が見られた内容

- ◎ 被除数に空位のある整数の乗法の計算をすること  
【問題番号 1(1)】
- ◎ 二つの数の最小公倍数を求めること  
【問題番号 1(2)】
- ◎ 示された場面を解釈し、除法で求めることができる理由を記述すること  
【問題番号 1(3)】
- ◎ 百分率で表された割合を分数で表すこと  
【問題番号 2(1)】

## 継続している課題について

- ・ 伴って変わる二つの数量が比例の関係にあることに気付くこと
- ・ 比例の関係に着目し、表や式を用いて未知の数量の求め方を説明すること  
に課題が見られます。

## 課題が見られた内容

- ▼ 示された場面において、目的に合った数の処理の仕方を考察すること【問題番号 1(4)】
- ▼ 示された場面のように、数量が変わっても割合は変わらないことを理解すること【問題番号 2(3)】
- ★ 伴って変わる二つの数量が比例の関係にあることを用いて、未知の数量の求め方と答えを記述すること【問題番号 2(4)】※次ページ参照  
……継続している課題(◆参照)
- ▼ 分類整理されたデータを基に、目的に応じてデータの特徴を捉え考察すること【問題番号 3(2)】
- ▼ 正三角形の意味や性質を基に、回転の大きさとしての角の大きさに着目し、正三角形の構成の仕方について考察し、記述すること【問題番号 4(1)】

## ◆ 継続して課題となった類似問題

- ① H30全学調: 小学6年A大問1(1)  
正答率(%) 県: 61.8, 全国: 62.9, 差(-1.1)
- ② H30全学調: 小学6年A大問7(2)  
正答率(%) 県: 53.2, 全国: 55.6, 差(-2.4)

## 課題となった問題

●2(4) (本県46.7%, 全国48.0%, 差-1.3) ※無解答(本県5.4%, 全国5.5%)

伴って変わる二つの数量が比例の関係にあることを用いて、未知の数量の求め方と答えを式や言葉を用いて記述できるかどうかをみる問題

(4) かいとさんは、果汁の割合と果汁の量がわかっていとき、飲み物の量を求めることができるかどうかを考えています。そこで、りんごの果汁の割合が30%で、果汁の量が180mLのときの飲み物の量を求めることにしました。

ゆうかさんは、かいとさんが気づいたことをもとに、次のように考えました。

かいと 果汁が30%ということは、果汁が30mLのとき、飲み物の量は100mLですね。



下の表のように、果汁の量が□倍になると、それにともなって飲み物の量も□倍になるのではないのでしょうか。このことを使えば、果汁の量が180mLのときの飲み物の量を求めることができますね。

ゆうか そうですね。私は、果汁の量から飲み物の量を求めるために、表にまとめました。

果汁の量 (mL)	30	60	90	...	180
飲み物の量 (mL)	100	200	300	...	?

上の表を見て、かいとさんは、次のことに気づきました。

かいと 果汁の量が2倍、3倍になると、それにともなって飲み物の量も2倍、3倍になることがわかりました。

果汁の量 (mL)	30	60	90	...	180
飲み物の量 (mL)	100	200	300	...	?

果汁の量が180mLのときの飲み物の量は、何mLになりますか。  
180mLが30mLの何倍かをどのように求めたのかわかるようにして、飲み物の量の求め方を式や言葉を使って書きましょう。また、答えも書きましょう。

【正答例】 [正答の条件: ①, ②の全てを書き, 答えを600と書いている]

- ①果汁の量は、 $180 \div 30 = 6$ で、6倍になっています。
- ②果汁の量が6倍になると飲み物の量も6倍になるので、 $100 \times 6 = 600$ で、600mLになります。

【誤答例】 ・果汁の量180mLが30mLの6倍であることを求める式や言葉は記述できているが、比例の関係を用いて、果汁の量が180mLのときの飲み物の量を求める式や言葉を記述できていないもの (県13.2%, 全国11.8%)

## 誤答例から考えられる授業での子供の姿

二つの数量が比例の関係にあることを見だし、比例の関係に着目して、未知の数量の求め方を説明できるまでには至っていない。

## 授業改善のポイント

- ① 二つの数量の関係を見だすために、一方の数量を決めれば他方の数量が決まるかどうか(表を縦に見る)、一方の数量は他方の数量に伴って一定の決まりに従って変化するか(表を横に見る)、といった見方で表を考察する活動を取り入れる。
- ② 比例の関係にあることを用いて、指定した一方の数量に対する他方の数量を求める活動を取り入れる。
- ③ 日頃から、問題や資料等から気付いた自分の考えを言葉や図、式、表等で書き出したり、友達と伝え合ったりする活動を取り入れる。

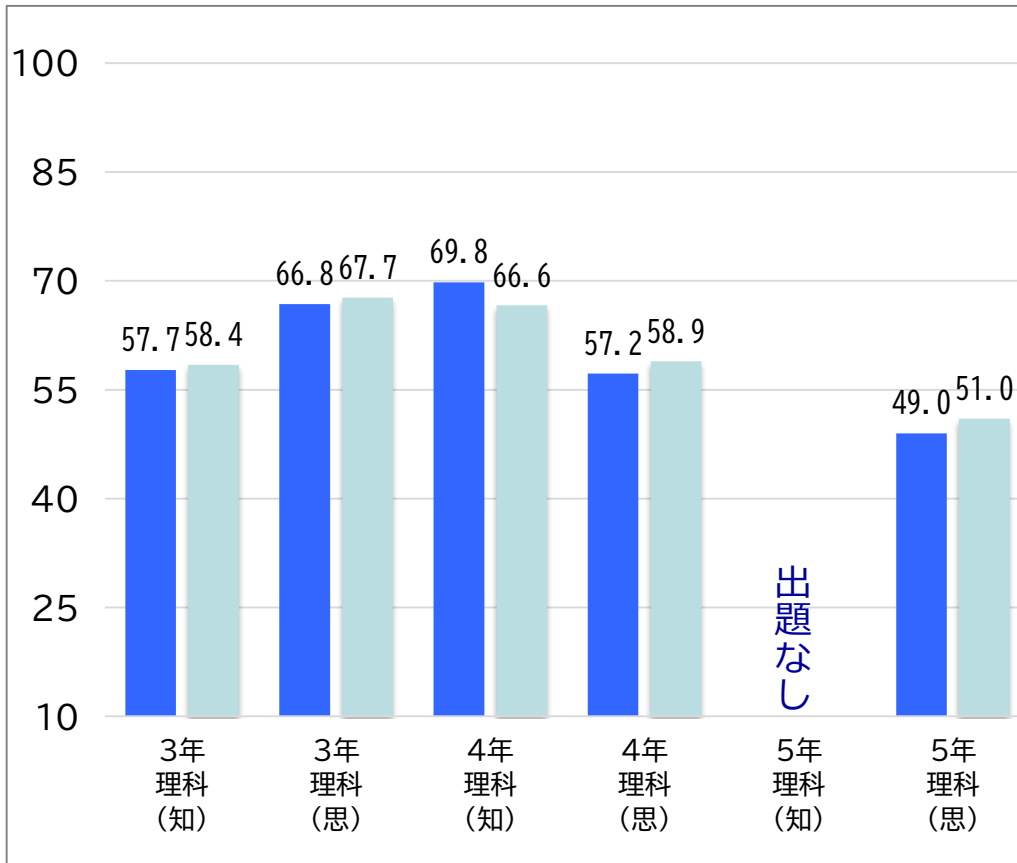
伴って変わる二つの数量を見だし、一方の数量に伴って他方の数量がどのように変化するかに着目し、未知の数量を求めることができるようにすることが重要である。その際、表に整理して、二つの数量の関係に着目できるようにすることが大切である。また、二つの数量から割合を求めることができるだけでなく、示された割合になる二つの数量を考えることができるようにすることも大切である。

R4報告書 (小学校算数) P48

## 2 - (1) 教科の結果分析（観点別正答率と度数分布）

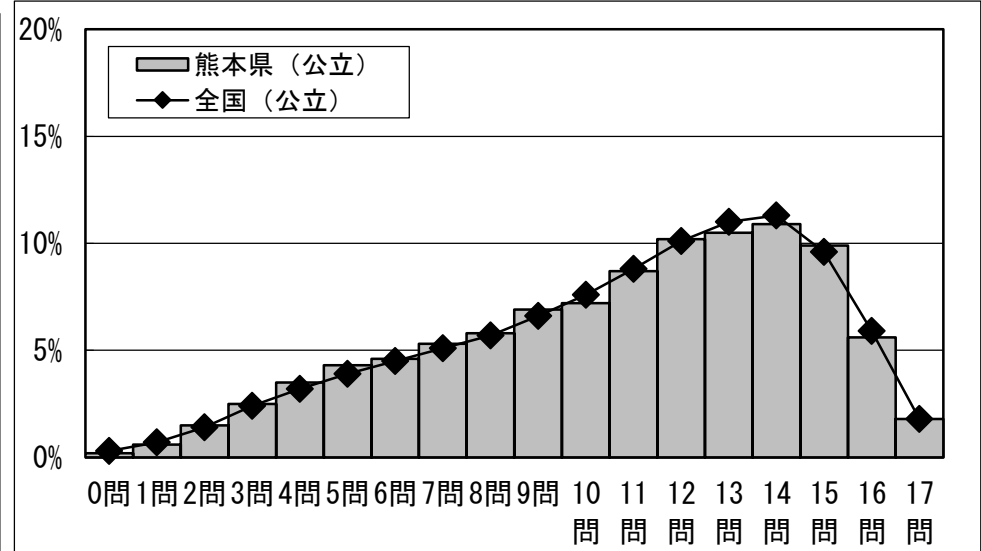
【観点別正答率】

全学調の各小問を、学年と観点別に分け、正答率を算出



■ 本県    ■ 全国

【正答数度数分布】





- ・「観点別正答率」から、4年生の知識・技能は全国平均を上回っている。どの学年でも思考・判断・表現は、全国平均を下回っており、課題が見られる。
- ・「正答数度数分布」で見ると、全国値とほぼ同じだが、正答数4問以下の割合がわずかに多く、正答数13問以上の割合はわずかに少ない。

※(知)は知識・技能、(思)は思考・判断・表現である評価の観点。

## 2 - (2) 教科の結果分析 (小問別正答率)

問題番号	出題の主趣	学年	単元・内容等	観点	正答率(%)		差		
					県	全国			
1	(1) 問題を解決するために必要な観察の視点を基に、問題を解決するまでの道筋を構想し、自分の考えをもつことができる	3年	身の回りの生物	思考	92.1	92.9	-0.8		
	(2) 自分で行った観察で収集した情報と追加された情報を基に、問題に対するまとめを検討して、改善し、自分の考えをもち、その内容を記述できる	3年	身の回りの生物	思考	67.0	67.5	-0.5		
	(3) 昆虫の体のつくりを理解している	3年	身の回りの生物	知識	70.7	73.1	-2.4		※
	(4) 提示された情報を、複数の視点で分析して、解釈し、自分の考えをもつことができる	3年	身の回りの生物	思考	73.0	76.1	-3.1	▼	
	(5) 観察などで得た結果を、他者の気付きの視点で分析して、解釈し、自分の考えをもつことができる	3年	身の回りの生物	思考	64.1	65.5	-1.4		
2	(1) メスシリンダーという器具を理解している	4年	金属、水、空気と温度	知識	70.9	67.8	3.1	◎	
	(2) メスシリンダー正しい扱い方を身に付けている	4年	金属、水、空気と温度	知識	69.0	70.0	-1.0		
	(3) 自分で発想した予想と、実験の結果を基に、問題に対するまとめを検討して、改善し、自分の考えをもつことができる	4年 5年	金属、水、空気と温度	思考	59.8	62.8	-3.0	▼	
	(4) 自然の事物・現象から得た情報を、他者の気付きの視点で分析して、解釈し、自分の考えをもち、その内容を記述できる	4年 5年	金属、水、空気と温度 物の溶け方	思考	38.1	39.3	-1.2		※
3	(1) 日光は直進することを理解している	3年	光と音の性質	知識	30.1	27.8	2.3	◎	
	(2) 問題に対するまとめを導きだすことができるように、実験の過程や得られた結果を適切に記録している	3年	光と音の性質	知識	72.3	74.4	-2.1		
	(3) 自分で発想した実験の方法と、追加された情報を基に、実験の方法を検討して、改善し、自分の考えをもつことができる	3年	光と音の性質 太陽と地面の様子	思考	67.4	68.9	-1.5		※
	(4) 実験で得た結果を、問題の視点で分析して、解釈し、自分の考えをもち、その内容を記述できる	3年	光と音の性質	思考	36.9	35.1	1.8	◎	
4	(1) 観察で得た結果を、問題の視点で分析して、解釈し、自分の考えをもつことができる	4年	天気の様子	思考	81.4	82.3	-0.9		
	(2) 予想が確かめられた場合に得られる結果を見通して、問題を解決するまでの道筋を構想し、自分の考えをもつことができる	4年	天気の様子	思考	63.5	64.5	-1.0		※
	(3) 観察などで得た結果を、結果からいえることの視点で分析して、解釈し、自分の考えをもつことができる	4年	天気の様子	思考	43.4	45.5	-2.1	★	
	(4) 水は水蒸気になって空気中に含まれていることを理解している	4年	天気の様子 金属、水、空気と温度	知識	69.5	62.0	7.5	◎	

 全国平均を上回っているもの  
 全国平均を下回っているもの

◎ : 成果が見られた内容  
 ▼ : 課題が見られた内容  
 ★ : 継続している課題  
 ※ : 授業アイディア例の記載

### 成果が見られた内容

- ◎ メスシリンダーという器具を理解していること  
【問題番号 2(1)】
- ◎ 日光は直進することを理解していること  
【問題番号 3(1)】
- ◎ 実験で得た結果を、問題の視点で分析して、解釈し、自分の考えをもち、その内容を記述できること  
【問題番号 3(4)】
- ◎ 水是水蒸気になって空気中に含まれていることを理解していること  
【問題番号 4(4)】

### 継続している課題について

- 考察の場面で、
- ・ 観察、実験の結果から、問題に正対した数量、変化の大きさなどの特徴を読み取ること
  - ・ 観察、実験の結果から、自分の予想や仮説に対して、自分の考えをもちこと  
に課題が見られます。

### 課題が見られた内容

- ▼ 提示された情報を、複数の視点で分析して、解釈し、自分の考えをもちこと  
【問題番号 1(4)】
- ▼ 自分で発想した予想と、実験の結果を基に、問題に対するまとめを検討して、改善し、自分の考えをもちこと  
【問題番号 2(3)】
- ★ 観察などで得た結果を、結果からいえることの視点で分析して、解釈し、自分の考えをもちこと  
【問題番号 4(3)】※次ページ参照  
……継続している課題(◆参照)

### ◆ 継続して課題となった類似問題

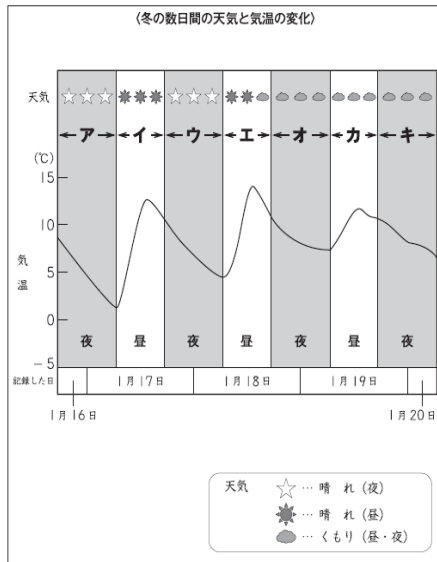
- ① H27全学調: 小学6年大問3(3)  
正答率(%) 県: 50.9, 全国: 51.7, 差(-0.8)
- ② H30全学調: 小学6年大問3(3)  
正答率(%) 県: 59.1, 全国: 59.4, 差(-0.3)

## 課題となった問題

●4(3) (本県43.4%, 全国45.5%, 差-2.1) ※無解答(本県6.0%, 全国6.5%)

冬の数日間の天気と気温について整理した資料(観察・実験の結果)を、分析して、解釈し、冬の晴れた夜を示す部分を読み取る問題

よしこさんは、冬の数日間の天気と気温を観測したり、インターネットで調べたりして、下のように整理をしました。



(3) よしこさんは、【問題】「冬の夜の気温は、どのように変化するか。」について、(冬の数日間の天気と気温の変化)からいえることを、次のようにまとめました。

【結果からいえること】

- ①冬の晴れた夜は、気温が下がる。
- ②冬のくもった夜は、気温が下がる。
- ③冬の晴れた夜の気温は、7℃ぐら이하がり、冬のくもった夜の気温は、3℃ぐら이하がる。

これらのことから、冬の夜の気温は、下がり続け、冬の晴れた夜は、冬のくもった夜よりも気温の変化が大きいといえる。

上の【結果からいえること】の①は、(冬の数日間の天気と気温の変化)のどの部分をもとに、まとめていますか。左の ア から キ までの中からすべて選んで、その記号を書きましょう。

【正答例】  
・アとウと解答しているもの (①冬の晴れた空は、気温が下がるの根拠となる結果)

【誤答例】  
・ア、ウに加えて、オ、キも入れてと解答している (県21.6%, 全国21.1%)  
・イ、エまたは、イとエのいずれかを解答している (県1.5%, 全国1.4%)

R4報告書(小学校理科)P68

## 誤答例から考えられる授業での子供の姿

観察・実験の結果から、問題に正対した数量、変化の大きさなどの特徴を読み取ることができず、自分の考えがもてない。

## 授業改善のポイント

- ① 観察・実験の結果を分析する際に、実験の目的を振り返り、どの視点から結果を見ていくのか確認をする。
- ② 観察・実験の結果から、一人一人が考察を行う場面を設定し、自分の考えがもてるように丁寧に指導していく。
- ③ 自分の考えをもとに、それぞれの考えを出し合い考察の妥当性を検討する場面を設定する。

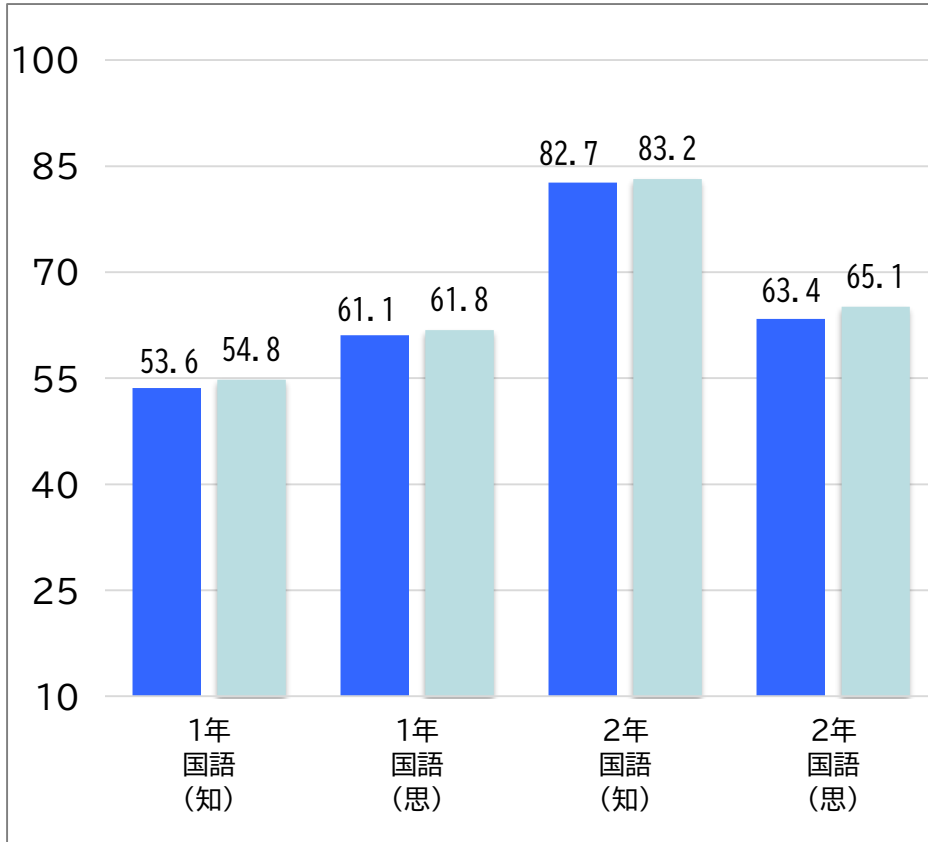
結果などから結論を導き出すために必要な数量、変化の大きさなどの特徴を見つけ、自分の考えをもち、それらを話し合う場面を設定することが大切である。

R4報告書(小学校理科)P70

## 2 - (1) 教科の結果分析 (観点別正答率と度数分布)

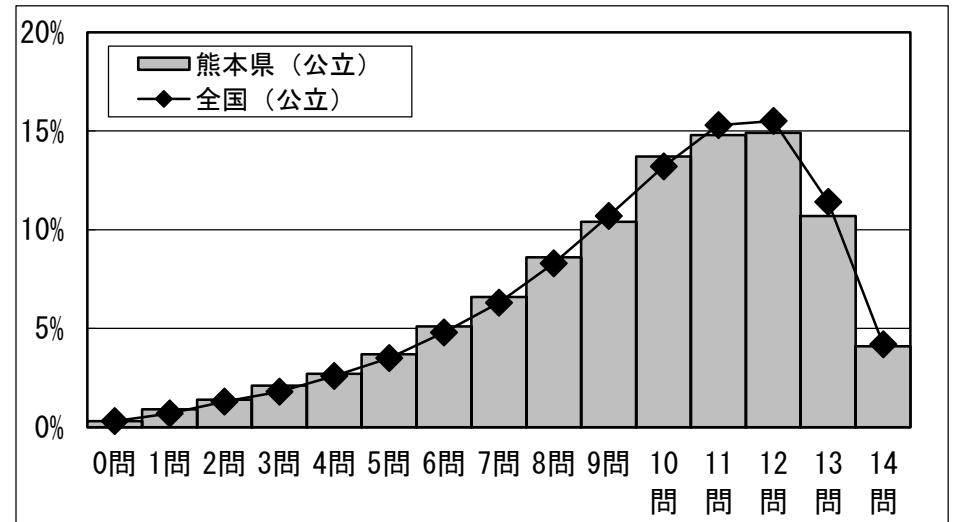
【観点別正答率】

全学調の各小問を、学年と観点別に分け、正答率を算出



■ 本県    ■ 全国

【正答数度数分布】



- ・「観点別正答率」から、1年生、2年生いずれの観点も全国値をわずかに下回っており、知識・技能、思考・判断・表現ともに課題が見られる。
- ・「正答数度数分布」で見ると、全国値とほぼ同じ曲線を描いているが、正答数8問以下の割合が多く、正答数11問以上で低くなっている。

※(知)は知識・技能、(思)は思考・判断・表現である評価の観点。



## 2 - (2) 教科の結果分析 (小問別正答率)

問題番号	出題の主趣	学年	学習指導要領 指導事項	観点	正答率(%)			差		
					県	全国				
1	一 聞き手の興味・関心などを考慮して、表現を工夫する	1年	「話すこと」ウ	思考	75.2	74.7	0.5	◎		
	二 論理の展開などに注意して聞く	2年	「聞くこと」エ	思考	63.4	65.1	-1.7	▼		
	三 自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫して話す	1年	「話すこと」ウ	知・思	52.2	51.8	0.4	◎	※	
2	一 助動詞の働きについて理解し、目的に応じて使う	2年	言葉の特徴や使い方に関する事項 オ	知識	81.2	82.3	-1.1			
	二① 文脈に即して漢字を正しく書く	2年	言葉の特徴や使い方に関する事項 ウ	知識	80.2	82.1	-1.9			
	二② 文脈に即して漢字を正しく書く	2年	言葉の特徴や使い方に関する事項 ウ	知識	81.2	80.5	0.7			
	三 自分の考えが伝わる文章になるように、根拠を明確にして書く	1年	「書くこと」ウ	知・思	45.2	46.5	-1.3	▼	※	
3	一 表現の技法について理解する	1年	言葉の特徴や使い方に関する事項 オ	知識	49.1	52.5	-3.4	▼		
	二 事象や行為、心情を表す語句について理解する	1年	言葉の特徴や使い方に関する事項 ウ	知識	81.7	84.0	-2.3	▼		
	三 場面の展開や登場人物の心情の変化などについて、描写を基に捉える	1年	「読むこと」イ	思考	60.7	62.0	-1.3	★	※	
	四 場面と場面、場面と描写などを結び付けて、内容を解釈する	1年	「読むこと」ウ	思考	72.4	73.8	-1.4	▼		
4	一 行書の特徴を理解する	1年	「書写」我が国の言語文化に関する事項 エ(イ)	知識	39.8	39.4	0.4	◎	※	
	二 漢字の行書の読みやすい書き方について理解する	2年	「書写」我が国の言語文化に関する事項 ウ(ア)	知識	89.2	90.1	-0.9			
	三 漢字の行書とそれに調和した仮名の書き方を理解する	2年	「書写」我が国の言語文化に関する事項 ウ(ア)	知識	81.8	81.1	0.7	◎		

■ 全国平均を上回っているもの

■ 全国平均を下回っているもの

◎ : 成果が見られた内容

▼ : 課題が見られた内容

★ : 継続している課題

※ : 授業アイディア例の記載

## 成果が見られた内容

- ◎ 聞き手の興味・関心などを考慮して、表現を工夫すること  
【問題番号 1一】
- ◎ 自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫して話すこと  
【問題番号 1三】
- ◎ 行書の特徴を理解すること  
【問題番号 4一】
- ◎ 漢字の行書とそれに調和した仮名の書き方を理解すること  
【問題番号 4三】

## 継続している課題について

文学的な文章を読む際、

- ・文章の中の時間的、空間的な場面の展開、登場人物の相互関係や心情の変化、行動や情景の描写などに注意しながら読み進めることに課題が見られます。

## 課題が見られた内容

- ▼ 論理の展開などに注意して聞くこと  
【問題番号1二】
- ▼ 自分の考えが伝わる文章になるように、根拠を明確にして書くこと  
【問題番号 2三】
- ▼ 表現の技法について理解すること  
【問題番号 3一】
- ▼ 事象や行為、心情を表す語句について理解すること  
【問題番号 3二】
- ★ 場面の展開や登場人物の心情の変化などについて、描写を基に捉えること  
【問題番号 3三】※次ページ参照  
……継続している課題(◆参照)
- ▼ 場面と場面、場面と描写などを結びつけて、内容を解釈すること  
【問題番号 3四】

## ◆ 継続して課題となった類似問題

- ① R3全学調: 中学校国語3二  
正答率(%)県:55.8, 全国:58.7, 差(-2.9)

## 課題となった問題

●3三(本県60.7%, 全国62.0%, 差-1.3)※無解答(本県1.2%, 全国1.0%)

場面の展開や登場人物の心情の変化などについて、描写を基に捉えることができるかどうかをみる問題

- 三 次のAからCまでの「おれ」の行動や心情を、話の展開に沿って順番に並び替えるかどうかのようになりますか。A、B、Cを適切に並び替えて書きなさい。
- A 昔のことについて、母と電話で押し問答をする。
- B 息子の遊ぶ様子を見ながら、不意に妙なつかしさにとらわれる。
- C 息子への申し訳なさを募らせつつ、目の前の息子を頼もしく思う。

(堀本裕樹・田丸雅智『俳句でつくる小説工房』による)

※本文省略

【都会のビーチ】

3 次の文章は、「こどもの日浅い水辺を海にして」という俳句から想像を広げることで生まれた小説です。これを読んで、あとの問いに答えなさい。

## 誤答例から考えられる授業での子供の姿

全文を通読し、中心人物の行動や心情の変化について、叙述を基に読み取ることが難しい。

## 授業改善のポイント

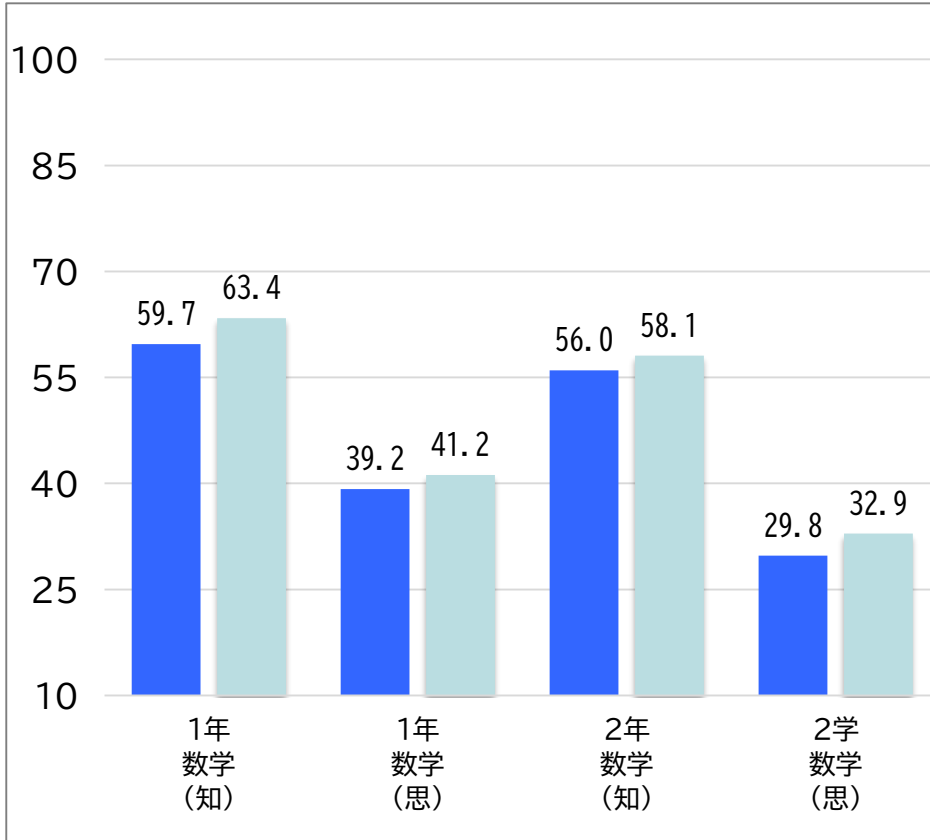
- ① 文学的な文章を読む際には、文章の中の時間的、空間的な場面の展開、登場人物の相互関係や心情の変化、行動や情景の描写などに注意しながら読み進めることを指導する。
- ② 心情を表す言葉を取り上げてその変化をたどったり、叙述の細かな違いに注意して読み、それぞれの叙述が表している心情の違いを考えたりする学習活動を設定する。
- ③ 話の展開を捉えて、複数の場面を相互に結び付けたり、登場人物の心情や行動、情景等の描写を結び付けたりすることによって、場面や描写に新たな意味付けをするような学習活動を工夫する。

指導の際は、第1学年〔知識及び技能〕の(1)ウとの関連を図り、細部の描写にも着目しながら物事の様子や場面、行動や心情の変化を丁寧に捉えていくことが有効である。

## 2 - (1) 教科の結果分析（観点別正答率と度数分布）

【観点別正答率】

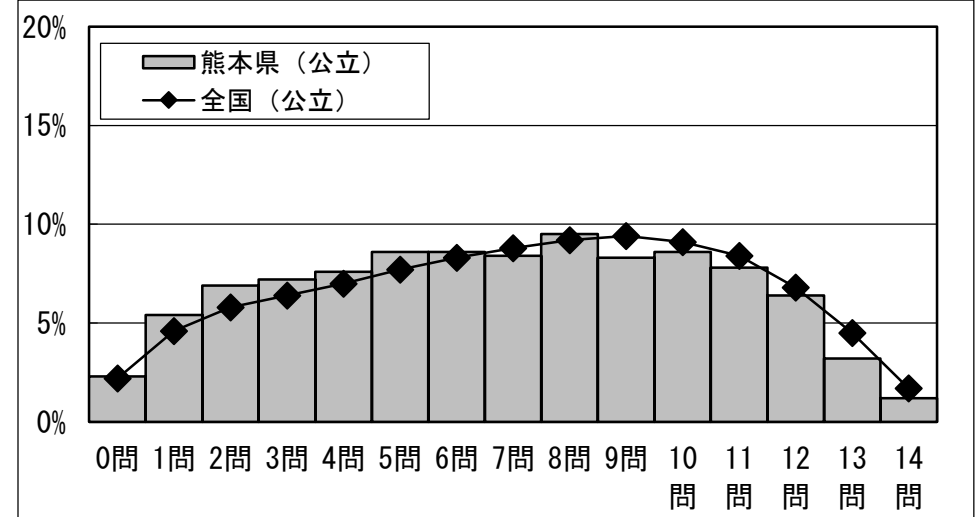
全学調の各小問を、学年と観点別に分け、正答率を算出



■ 本県    ■ 全国


※(知)は知識・技能, (思)は思考・判断・表現である評価の観点。

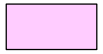
【正答数度数分布】



- ・「観点別正答率」から、1年生、2年生ともに全国値を下回っており、特に1年生の知識・技能と2年生の思考・判断・表現において課題が見られる。
- ・「正答数度数分布」で見ると、正答数5問以下の割合が多く、正答数9問以上の割合が少ない。

## 2 - (2) 教科の結果分析 (小問別正答率)

 全国平均を上回っているもの

 全国平均を下回っているもの

◎ : 成果が見られた内容

▼ : 課題が見られた内容

★ : 継続している課題

※ : 授業アイディア例の記載

問題番号	出題の主趣	学年	単元・内容等	観点	正答率(%)		差		
					県	全国			
1	自然数を素数の積で表すことができる	1年	正の数と負の数 (数と式)	知識	47.3	52.2	-4.9	▼	
2	簡単な連立二元一次方程式を解くことができる	2年	連立二元一次方程式 (数と式)	知識	71.5	74.5	-3.0		
3	反例の意味を理解している	2年	図形の合同 (図形)	知識	42.8	44.9	-2.1		※
4	一次関数の変化の割合の意味を理解している	2年	一次関数 (関数)	知識	38.9	37.9	1.0	◎	
5	多数の観察や多数回の試行によって得られる確率の意味を理解している	1年	不確定な事象の起こりやすさ (データの活用)	知識	82.5	83.3	-0.8		
6	(1) 問題場面における考察の対象を明確に捉えることができる	2年	文字を用いた式 (数と式)	知識	69.0	73.8	-4.8	▼	※
	(2) 目的に応じて式を変形したり, その意味を読み取ったりして, 事柄が成り立つ理由を説明することができる	2年	文字を用いた式 (数と式)	思考	44.4	48.7	-4.3	★	
	(3) 結論が成り立つための前提を考え, 新たな事柄を見だし, 説明することができる	2年	文字を用いた式 (数と式)	思考	35.9	37.6	-1.7		
7	(1) データの傾向を的確に捉え, 判断の理由を数学的な表現を用いて説明することができる	1年	データの分布 (データの活用)	思考	43.0	44.0	-1.0		※
	(2) 箱ひげ図から分布の特徴を読み取ることができる	2年	データの分布 (データの活用)	知識	44.3	44.1	0.2	◎	
8	(1) 与えられた表やグラフから, 必要な情報を適切に読み取ることができる	1年	比例, 反比例 (関数)	知識	49.3	54.6	-5.3	▼	
	(2) 事象を数学的に解釈し, 問題解決の方法を数学的に説明することができる	1年	比例, 反比例 (関数)	思考	35.4	38.4	-3.0		
9	(1) 証明の根拠として用いられている三角形の合同条件を理解している	2年	図形の合同 (図形)	知識	69.6	73.2	-3.6	▼	
	(2) 筋道を立てて考え, 事柄が成り立つ理由を説明することができる	2年	図形の合同 (図形)	思考	9.0	12.5	-3.5	▼	

## 成果が見られた内容

- ◎ 一次関数の変化の割合の意味を理解していること【問題番号 4】
- ◎ 箱ひげ図から分布の特徴を読み取ること【問題番号 7(2)】

## 課題が見られた内容

- ▼ 自然数を素数の積で表すこと【問題番号 1】
- ▼ 問題場面における考察の対象を明確に捉えること【問題番号 6(1)】
- ★ 目的に応じて式を変形したり, その意味を読み取ったりして, 事柄が成り立つ理由を説明すること【問題番号 6(2)】次ページ参照  
……継続している課題(◆参照)
- ▼ 与えられた表やグラフから, 必要な情報を適切に読み取ること【問題番号 8(1)】
- ▼ 証明の根拠として用いられている三角形の合同条件を理解していること【問題番号 9(1)】
- ▼ 筋道を立てて考え, 事柄が成り立つ理由を説明すること【問題番号 9(2)】

## 継続している課題について

- ・見通しをもって式を変形すること
- ・文字式や言葉を用いて根拠を明らかにすること

に課題が見られます。

## ◆ 継続して課題となった類似問題

- ① H31全学調: 中学3年大問9(2)  
正答率(%) 県: 56.5, 全国: 59.7, 差 (-3.2)
- ② R3全学調: 中学3年大問6(2)  
正答率(%) 県: 53.7, 全国: 61.8, 差 (-8.1)

## 課題となった問題

●6(2) (本県44.4%, 全国48.7%, 差-4.3) ※無解答(本県22.7%, 全国20.0%)

目的に応じて式を変形したり、その意味を読み取ったりして、事柄が成り立つ理由を説明することができるかどうかを見る問題

① 康太さんは、2つの偶数の和がどのような場合に4の倍数になるかを調べています。

$$\begin{array}{l} 2+2=4 \\ 2+4=6 \\ 2+6=8 \end{array} \quad \begin{array}{l} 4+2=6 \\ 4+4=8 \\ 4+6=10 \end{array} \quad \begin{array}{l} 6+2=8 \\ 6+4=10 \\ 6+6=12 \end{array}$$

2+2=4, 4+4=8, 6+6=12のように、同じ2つの偶数の場合、2つの偶数の和が4の倍数になっていることから、康太さんは次のように予想しました。

4=4×1  
8=4×2  
12=4×3  
3つとも4の倍数になっているね。



予想1

同じ2つの偶数の和は、4の倍数になる。

上の予想1がいつでも成り立つことは、次のように説明できます。

説明1

$n$ を整数とすると、偶数は $2n$ と表される。  
同じ2つの偶数の和は、  
 $2n+2n=4n$   
 $n$ は整数だから、 $4n$ は4の倍数である。  
したがって、同じ2つの偶数の和は、4の倍数になる。

② 康太さんは、2+6=8のように、同じ2つの偶数の和のほかに、4の倍数になることがあることから、さらにくわしく調べてみました。

$$\begin{array}{l} 2+6=8=4\times 2 \\ 6+2=8=4\times 2 \\ 10+14=24=4\times 6 \\ 28+32=60=4\times 15 \end{array}$$

そして、次のように予想しました。

予想2

差が4である2つの偶数の和は、4の倍数になる。

2+6と6+2は同じとみていいから、  
(小さい方の偶数)+(大きい方の偶数)  
について説明すればいいね。



上の予想2がいつでも成り立つことを説明します。下の説明2を完成しなさい。

説明2

$n$ を整数とすると、差が4である2つの偶数のうち、  
小さい方の偶数は $2n$ 、大きい方の偶数は $2n+4$ と表される。  
それらの和は、

$$\begin{array}{l} 2n+(2n+4) \\ = \end{array}$$

【正答例】  
・  $4(n+1)$   $n+1$ は整数だから、 $4(n+1)$ は4の倍数である。  
したがって、差が4である2つの偶数の和は、4の倍数になる。  
・  $4n+4$   $4n$ 、4が4の倍数で、4の倍数の和は4の倍数だから、  
 $4n+4$ は4の倍数である。  
したがって、差が4である2つの偶数の和は、4の倍数になる。

【誤答例】  
・ 理由の説明に対する式の変形が不十分であったり、事柄が成り立つために必要な条件を記述していなかったりするもの (県28.2%, 全国27.1%)

R4報告書(中学校数学)P42

## 誤答例から考えられる授業での子供の姿

- ・ 計算の結果が  $4 \times$  (整数) と表せるという見通しをもつまでには至っていない。
- ・ 根拠を明らかにして記述するまでには至っていない。

## 授業改善のポイント

- ① 事柄が一般的に成り立つ理由を、構想を立てて説明する場面を設定し、文字式や言葉を用いて根拠を明らかにできるように指導していく。
- ② 予想した事柄について、どのような式の形で表すことができるのか見通しもって、説明に必要な根拠を示していくことを授業に取り入れる。
- ③ 日頃から説明しなければならない事柄を的確に把握し、問いに対して筋道立てた記述になっているか、説明を洗練させていく活動を取り入れる。

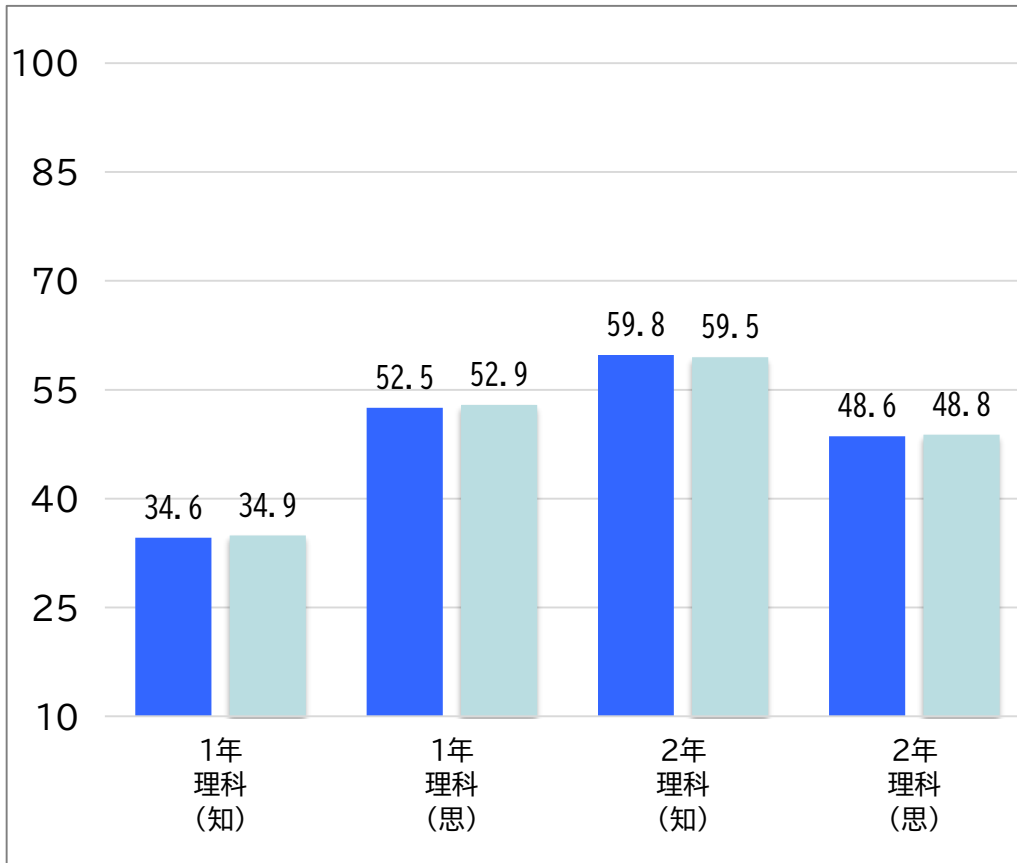
結論が成り立つための前提を考え、見いだした事柄を数学的に表現できるようにするために、すでに成り立つことが示された事柄を基に、前提を変えても成り立つ場合を考え、話し合う活動を取り入れることが考えられる。その際、成り立つ事柄を予想するために、具体例をあげて調べる活動を充実することが大切である。

R4報告書(中学校数学)P9・44

## 2 - (1) 教科の結果分析（観点別正答率と度数分布）

【観点別正答率】

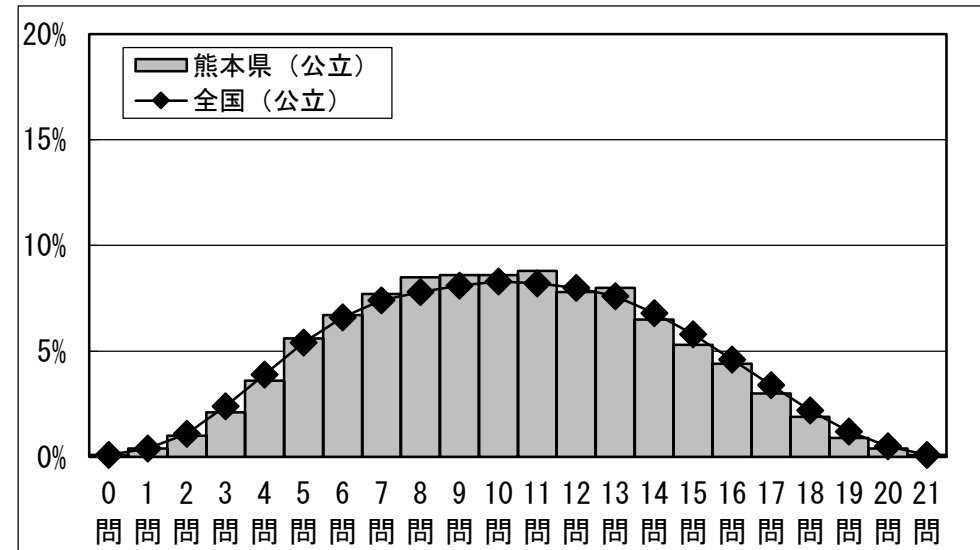
全学調の各小問を、学年と観点別に分け、正答率を算出



■ 本県    ■ 全国

※(知)は知識・技能, (思)は思考・判断・表現である評価の観点。

【正答数度数分布】



- ・「観点別正答率」から、2年生の知識・技能は全国平均をわずかに上回っているが、その他の学年の観点は、全国平均をわずかに下回っている。
- ・「正答数度数分布」で見ると、ほぼ全国平均と同じだが、正答数14問以上の割合はわずかに少なくなっている。



## 2-(2) 教科の結果分析 (小問別正答率)

問題番号	出題の主趣	学年	単元・内容等	観点	正答率(%)		差		
					県	全国			
1	(1) 日常生活や社会の中で物体が静電気を帯びる現象を問うことで、静電気に関する知識及び技能を活用できるかどうかをみる	2年	電流	知識	46.0	44.2	1.8	◎	※
	(2) モデルを使った実験において、変える条件と変えない条件を制御した実験を計画できるかどうかをみる	2年	電流	思考	79.2	78.5	0.7		
2	(1) 観測した気圧と天気図の気圧が異なる理由を考える学習場面において観測地の標高を空間的に捉え、気圧の概念を空気の柱で説明できるか問うことで、気圧に関する知識及び技能を身に付けているかどうかをみる	2年	気象観測	知識	53.2	54.2	-1.0		
	(2) 継続的に記録した空の様子を撮影した画像と百葉箱の観測データを天気図に関連付けて、天気の変化を分析して解釈できるかどうかをみる	2年	天気の変化	思考	41.7	40.8	0.9		
	(3) 飛行機雲の残り方を科学的に探究する学習場面において、地上の観測データを用いて考察を行った他者の考えについて、多面的、総合的に検討して改善できるかどうかをみる	2年	天気の変化	思考	27.5	28.5	-1.0		※
3	(1) 化学変化に関する知識及び技能を活用して、水素の燃料を分子のモデルで表した図を基に化学反応式で表すことができるかどうかをみる	2年	化学変化	知識	80.2	80.1	0.1		
	(2) 水を電気分解して発生させた水素を燃料として使う仕組みを探究する学習場面において、粒子の保存性の視点から化学変化に関わる水の質量が変化しないことを、分析して解釈できるかどうかをみる	2年	化学変化	思考	59.3	60.2	-0.9		
	(3) 化学変化に関する知識及び技能と「エネルギー」を柱とする領域の知識及び技能を関連付け、水素を燃料として使う仕組みの例の全体を働かせるおおもとして必要なものを分析して解釈できるかどうかをみる	2年	電流 化学変化	思考	24.8	24.8	0		※
4	(1) 節足動物の外部形態の観察結果と調べた内容を、生活場所や移動の仕方と関連付けて、体のつくりと働きを分析して解釈できるかどうかをみる	1年	生物の体の共通点と相違点	思考	76.2	74.5	1.7	◎	※
	(2) 複数の脊椎動物の外部形態の考察を行う場面において、あしの骨格について共通性と多様性を見方を働かせながら比較し、共通点と相違点を分析して解釈できるかどうかをみる	1年	生物の体の共通点と相違点	思考	66.9	65.6	1.3	◎	

全国平均を上回っているもの

全国平均を下回っているもの

◎ : 成果が見られた内容

▼ : 課題が見られた内容

★ : 継続している課題

※ : 授業アイディア例の記載

2-(2) 教科の結果分析 (小問別正答率)

問題番号	出題の主趣	学年	単元・内容等	観点	正答率(%)		差		
					県	全国			
5	(1) 力の働きに関する知識及び技能を活用して、物体に働く重力とつり合う力を矢印で表し、その力を説明できるかどうかをみる	1年	電流と磁界	知識	14.2	15.3	-1.1		
	(2) 課題に正対した考察を行うためのグラフを作成する技能が身に付いているかどうかをみる	1年	電流と磁界	知識	41.9	45.0	-3.1	▼	
	(3) 考察の妥当性を高めるために、測定値の増やし方について、測定する範囲と刻み幅の視点から実験の計画を検討して改善できるかどうかをみる	1年	電流と磁界	思考	42.5	43.3	-0.8	★	※
6	(1) 玄武岩の露頭で化石が観察できるかを問うことで、岩石に関する知識及び技能を活用できるかどうかをみる	1年	身近な地形や地層、岩石の観察	知識	45.1	48.0	-2.9		
	(2) 過去の大地の変動について、垂直方向の移動だけで推論した他者の考察を、水平方向の移動も踏まえて、検討して改善できるかどうかをみる	1年	地層の重なりと過去の様子	思考	59.2	60.3	-1.1		
	(3) 地層の広がり方について、時間的・空間的な見方を働かせながらルートマップと露頭のスケッチを関連付け、地層の傾きを分析して解釈できるかどうかをみる	1年	地層の重なりと過去の様子	思考	32.5	34.2	-1.7	▼	※
7	(1) 液体が気体に変化することによって温度が下がる身近な事象を問うことで、状態変化に関する知識及び技能を活用できるかどうかをみる	1年	状態変化	知識	37.1	35.9	1.2		
	(2) 実験の結果が考察の根拠として十分かどうか検討し、必要な実験を指摘して、実験の計画を改善できるかどうかをみる	1年	状態変化	思考	52.6	53.4	-0.8		※
8	(1) アリの行列のつくり方を探究する場面において、視覚による情報を基に行列をつくるかを調べた実験の結果を分析して解釈し、課題に正対した考察を行うことができるかどうかをみる	2年	動物の体のつくりと働き	思考	54.1	55.2	-1.1		
	(2) 予想や仮説と異なる結果が出る場合について、結果の意味を考え観察、実験の操作や条件の制御などの探究の方法について検討し探究の過程の見通しをもつことができるかどうかをみる	2年	動物の体のつくりと働き	思考	53.7	55.1	-1.4		※
	(3) 未知の節足動物とアリの外部形態を比較して共通点と相違点を捉え、分類の観点や基準を基に分析して解釈できるかどうかをみる	1年	植物の体のつくりと働き	思考	37.5	39.2	-1.7		

全国平均を上回っているもの

全国平均を下回っているもの

◎ : 成果が見られた内容

▼ : 課題が見られた内容

★ : 継続している課題

※ : 授業アイディア例の記載

## 成果が見られた内容

- ◎ 日常生活や社会の中で物体が静電気を帯びる現象を問うことで、静電気に関する知識及び技能を活用できること  
【問題番号 1(1)】
- ◎ 節足動物の外部形態の観察結果と調べた内容を、生活場所や移動の仕方と関連付けて、体のつくりと働きを分析して解釈できること  
【問題番号 4(1)】
- ◎ 複数の脊椎動物の外部形態の考察を行う場面において、あしの骨格について共通性と多様性の見方を働かせながら比較し、共通点と相違点を分析して解釈できること  
【問題番号 4(2)】

## 継続している課題について

- 考察やまとめの場面で、
- ・ 実験結果から、実験方法が課題解決に向けて十分であったかどうかを振り返って検討すること
  - ・ それを改善する実験方法を再度計画することに課題が見られます。

## 課題が見られた内容

- ▼ 課題に正対した考察を行うためのグラフを作成する技能が身に付いていること  
【問題番号 5(2)】
- ★ 考察の妥当性を高めるために、測定値の増やし方について、測定する範囲と刻み幅の視点から実験の計画を検討して改善できること  
【問題番号 5(3)】※次ページ参照  
……継続している課題(◆参照)
- ▼ 地層の広がり方について、時間的・空間的な見方を働かせながら、ルートマップと露頭のスケッチを関連付け、地層の傾きを分析して解釈できること  
【問題番号 6(3)】
- ◆ 継続して課題となった類似問題
  - ① H30 全学調: 中学3年大問7(2)  
正答率(%) 県: 76.4, 全国: 78.5, 差 (-2.1)
  - ② H30 全学調: 中学3年大問8(2)  
正答率(%) 県: 70.4, 全国: 72.0, 差 (-1.6)

継続して課題となった問題

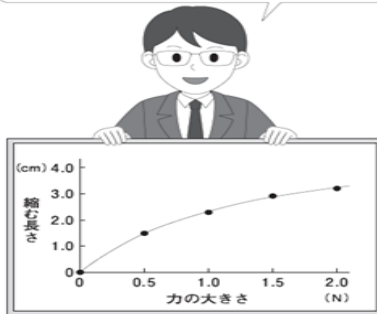
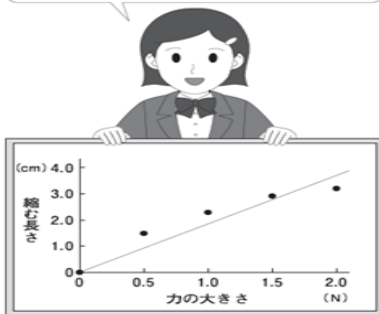
●5(3) (本県42.5%, 全国43.3%, 差-0.8) ※無解答(本県30.8%, 全国29.4%)

磁気ばねの実験で得られた考察の妥当性を高めるために、測定値の増やし方について、測定する間隔や範囲の視点から実験の計画を検討して改善できるかどうかをみる問題

グループで個人の考察を検討している場面

グラフが原点を通る直線になるので、比例すると考えます。

グラフは原点を通るけれど、直線にはならないので、比例しないと考えます。



測定値が足りないため、どちらの考えが妥当か判断できません。

(3) 下線部について、測定値をどのように増やせばよいか、【実験の計画】の「加える力の大きさを0から0.5Nずつ2.0Nまで変化させた」の部分を参考にして書きなさい。

【正答例】 ・加える力の大きさを0Nから0.2Nずつ2.0Nまで変化させる。  
・加える力の大きさを3.0Nにして測定する。

【誤答例】 ・おもりをより重いものにして測定する。  
・測定する間隔をもっと細かくして実験を行う。  
・何度も同じ実験を行い測定値を増やす。 (県17.8%, 国19.0%)

R4報告書(中学校理科)P57

誤答例から考えられる授業での子供の姿

実験の結果から、実験の方法を振り返り検討することはできるが、具体的な改善策を計画するまでは至っていない。

授業改善のポイント

- ① 観察・実験の結果から、一人一人が考察を行う場面を設定し、自分の考えがもてるように丁寧に指導していく。
- ② 考察をもとに、それぞれの考えを出し合い、考察の妥当性を検討する場面を設定する。
- ③ 考察の妥当性を検討する際に、実験の計画や実験結果の処理など、これまでの探究の過程を振り返り、納得するまで実験を行う場面を設定する。

測定する間隔や範囲など具体的な改善点を明確にし、それらを基に実験の計画を検討して改善する学習場面を設定し振り返って実験をすることは、科学的に探究する力を身に付ける上で重要である。

R4報告書(中学校理科)P59

### 3 今後の取組（各学校での取組に向けて）

①本県の課題である問題の克服→ 各教科の授業改善ポイントの**実践**を

②各学校の課題の克服 → 各学校での課題把握から実践、  
**定着確認まで**確実な取組を

③問題の活用 →

- ・ **授業における**全学調等問題の活用
- ・ 全学調等問題と類似した**定期テスト問題**の作成等

